

南部菱刺し「三巾前垂れ」の製作

藤原 香菜[†]・川守田 礼子^{††}

Creation of "Mihaba Maedare" of Nambu Diamond Embroidery

Kana FUJIWARA[†] and Reiko KAWAMORITA^{††}

ABSTRACT

We created a "Mihaba Maedare (Three-patched apron)", which is a signature item of Nambu Diamond Embroidery. While using traditional techniques, we added novelty and modernity in color composition, pattern construction and combination of clothes.

Key Words: Nambu Diamond Embroidery, Mihaba Maedare

キーワード: 南部菱刺し, 三巾前垂れ

1. はじめに

南部菱刺しは青森県の伝統工芸品である。本研究では南部菱刺しの三巾前垂れ（みはばまえだれ）製作に取り組む。南部菱刺しは江戸時代、旧南部藩領の農村地帯の女性たちが、農耕着の修繕方法として発展させた刺し子技術である。三巾前垂れとは縦に布三枚を縫い合わせた前掛けを指し、南部菱刺しに最も特徴的な製作物である。かつて農村部の女性たちが仕事着および祭事の晴れ着として製作・着用した。前掛けとして最も強度が必要な中央布全面に刺し子を施すことによって布地を補強するという機能性に加え、装飾性を備えたものである。本研究では、文献や現存作品に基づき、伝統的な三巾前垂れの構造および模様構成を調査・分析したうえで、伝統的な技法を用いながら、模様構成や色彩に新規性・現代性を加えた三巾前垂れを製作した。

2. 調査・分析

2.1 文献調査

三巾前垂れの模様・構成パターンについて文献調査を行った。南部菱刺し模様に関する入手可能な文献は限られており、本研究では主に八田愛子・鈴木堯子共著『菱刺し模様集《復刻版》』（日本ヴォーグ社、1989）を参考にした。

本書には約450種の模様が小模様、型刺し、地刺し、丸刺し、三蓋菱、のしざしに分類され掲載されているが、ここでは、伝統的な単位模様として型刺し（型コ）を調査した。アシガイという菱の枠を備えた模様を型コと呼び、菱刺しはこの型コを複数組み合わせる一つの作品を構成する。本書掲載の型刺し（型コ）の種類および数を表1にまとめた。模様は大きくモチーフごとに分類でき、植物・動物・道具・幾何学模様の四種類になることが分かった。

三巾前垂れの代表的な模様構成パターンとして、枡刺し・井桁・ココノマワシ・ミズフキの四種類が掲載されている。名称の由来は記載されておらず不明である。

令和1年12月9日受付

[†] 感性デザイン学部創生デザイン学科・4年

^{††} 感性デザイン学部創生デザイン学科・准教授

表1 型刺し(型コ)分類表

分類	模様名称	数	
植物	うめのはな(梅の花)	26	
	なしのもんこ(梨の紋こ)	13	
	そばがらびし(蕎麦殻菱)	2	
	ひょうたん(瓢箪)	6	
	ゆりのもんこ(百合の紋こ)	2	
	こんぶ(昆布)	4	
	計	53	
動物	きじのあし(雉の足)	22	
	うまのまなぐ(馬の目)	5	
	ねこのまなぐ(猫の目)	4	
	計	31	
道具	べこのくら(牛の鞍)	24	
	そろばんたま(算盤玉)	20	
	やばね(矢羽)	17	
	やのは(矢の羽)	6	
	おおぎのもんこ(扇の紋こ)	12	
	ふでのほっこ(筆の穂っこ)	1	
	こま(独楽)	7	
	計	87	
	幾何学	うろこもん(鱗文)	22
		はなのもんこ(花の紋こ)	
みつつびし(三つ菱)		13	
よつつびし(四つ菱)		20	
いつつびし(五つ菱)		19	
ななつびし(七つ菱)		4	
ここのつびし(九つ菱)		19	
いしだたみ(石畳)		8	
あじろ(網代)		5	
あいしげます(綾杉升)		8	
計		118	
総計		289	

本作品は、菱刺しを施した中央布(写真1①)、中央布を挟む両側の布(写真1②)、腰を縛る帯(写真1③)の計三つのパーツ(4枚の布)から構成される。中央布は麻布、その他のパーツは木綿布を使用している。中央布の菱刺しは枡刺しで、2色で鱗文(花の紋こ)を刺している。中央布上部には締めた時に身体になじむよう柔らかい風合いののしざしを施している。中央布と両側の布は亀甲かがり(写真2)という布同士が重ならない特殊な縫い方でつなぎ合わせる。そして、これら3枚の布を帯の中に挟むように縫製している。サイズは長さ80cmで脚部を全て覆う長さ、腰周りは30cm×3で90cmである。着用する人の身体サイズに合わせて調整する。



写真1 伝統工芸士中村禮子作の三巾前垂れ

2.2 作品調査

八戸市在住の伝統工芸士、中村禮子(南部菱刺し工房アトリエ縹代表、南部菱刺し連絡会代表)のアトリエにおいて、作品調査および伝統工芸士への聴き取り調査を行った。中村が復元した三巾前垂れ(写真1)を観察し、構造・製作方法等について指導を受け、その概要をまとめた(図1)。三巾前垂れの構造や製作方法は、ほとんど文献に記載されていないため、大変貴重な情報収集の機会となった。

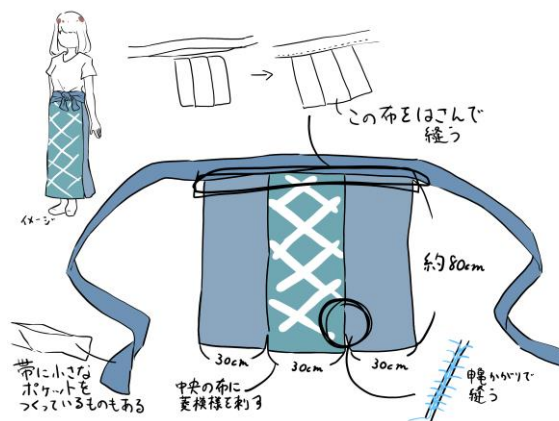


図1 三巾前垂れの構造・製作方法

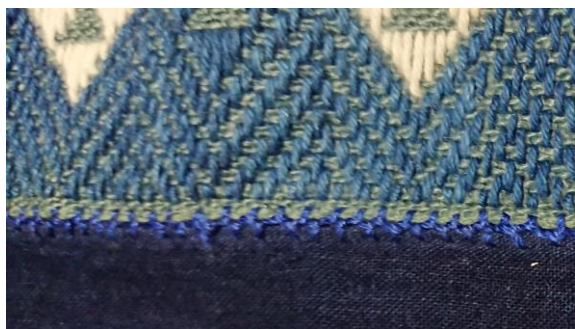


写真2 伝統工芸士中村禮子作の三巾前垂れ（亀甲かがり）

2.3 古作調査

2019年3月、東京都アミューズミュージアム開催「南部さしこ展」において三巾前垂れの古作調査を行った。本展では、民俗学者田中忠三郎が青森県内で収集した三巾前垂れの古作が展示された。代表的な模様構成パターンの柘刺し・井桁・ココノマワシ・ミズフキ四種全てを確認したほか、南部菱刺しの特徴である色彩構成バリエーションの事例を収集した。同じ構成パターンであっても色彩構成の違いで全く異なる印象を与える（写真3）。製作者の個性を表現するファクターとして色彩構成の重要性が分かった。



写真3 古作四種（アミューズミュージアム所蔵）

3. 製作

3.1 デザイン

本製作では、調査作品に基づき構成パターンは柘刺しを用いた。伝統模様の中から植物分類の梅の花・百合の紋こ・梨の紋こを選択し、縦に並ぶ三つの柘それぞれに一種類の模様をデザインするという古作にはあまり見られない模様構成とした。さらに、模様を重ねる、各模様の菱枠（アシガイ）に変化を付ける等、独自の工夫を加え、新規性を出した。色彩は各植物をイメージした赤・白・黄系統をメインに配し、多色使いで華やかさを表現した。図案はデザインソフトIllustratorを用いて作成した（図2）。

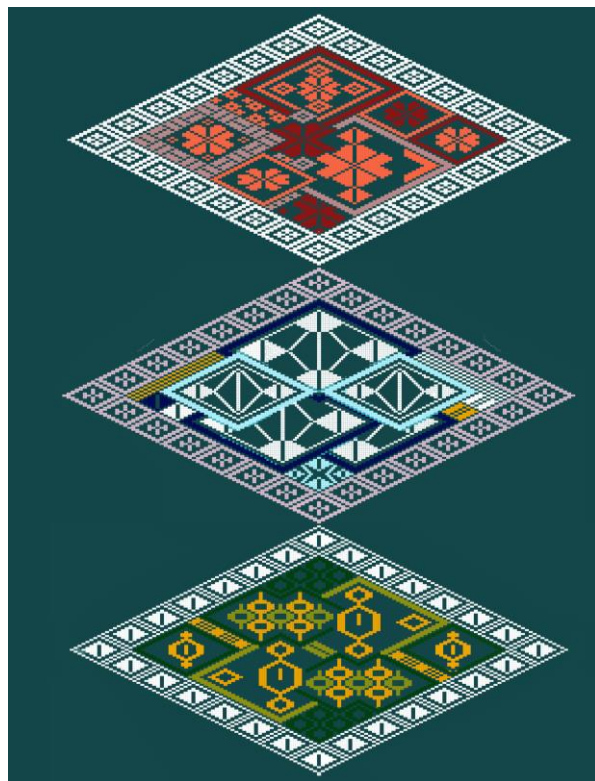


図2 図案

3.2 素材

中央布の菱刺しには浅葱色の麻布、刺子糸は10種類の草木染糸を用いた。中央布以外の布には、中央布の浅葱色にマッチし、かつ、菱刺し本来の布の再利用を図る目的に合うものとして、ジーンズなど数種の古着生地を組み合わせた。

3.3 製作過程

刺し工程の経過を示した(写真4)。枡の枠部分を先に刺し、次に中の模様を一枡ごとに順に刺して埋めていき、最後に枡周辺の刺しを行った。刺し全工程には約4ヶ月を要した。



写真4 製作過程

3.4 完成作品

各パーツの縫製を行い、完成である(写真5)。



写真5 完成作品

4. まとめ

本研究では、南部菱刺しの伝統技法を現代的な感覚で応用した三巾前垂れを製作した。文献等では記載されていない三巾前垂れの構造や製作方法を、実作を通して把握できた点に価値がある。本製作では、特に模様構成に関して、菱

模様のサイズに変化をつけ、大きさが異なる模様同士をパズルのように組み合わせるなど、従来の作品には見られない工夫を凝らすことによって、新規性を付与した。また、長時間を要する刺し作業によって、伝統的手仕事に携わってきた先人たちの感覚と対峙し、地域の人々の営みがどのようなものだったかを知ることができた。今後も南部菱刺しの価値発信につながる製作活動を継続していきたい。

謝 辞

製作にあたって技術指導をしてくださった南部菱刺し伝統工芸士の中村禮子氏に改めて厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 八田愛子・鈴木堯子：菱刺し模様集<<復刻版>>, 日本ヴォーグ社, 1989
- 2) 南部菱刺し工房アトリエ縹 HANADA : <https://hishizashi-hanada.jimdo.com/> (最終アクセス：2019年12月9日)
- 3) 青森県庁商工労働部地域産業課「青森県の伝統工芸品 南部菱刺し」：
https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/shoko/chiikisangyo/aomori_dento-kogei_nanbuhishizashi.html (最終アクセス：2019年12月9日)
- 4) 青森県庁商工労働部地域産業課「青森県伝統工芸士 工芸品目別一覧」：
http://61.199.163.171/soshiki/shoko/chiikisangyo/files/h30_dentoukoug-eishi-meibo.pdf (最終アクセス：2019年12月9日)
- 5) AMUSE MUSEUM : <https://www.amusemuseum.com/> (最終アクセス：2019年12月9日) 2019年3月閉館

要 旨

南部菱刺しの特徴的なアイテムである「三巾前垂れ」の製作を行った。伝統的な技法を用いながら、色彩構成や模様構成、組み合わせる生地にも新規性・現代性を加えた。

キーワード：南部菱刺し，三巾前垂れ